

交通安全教育資料

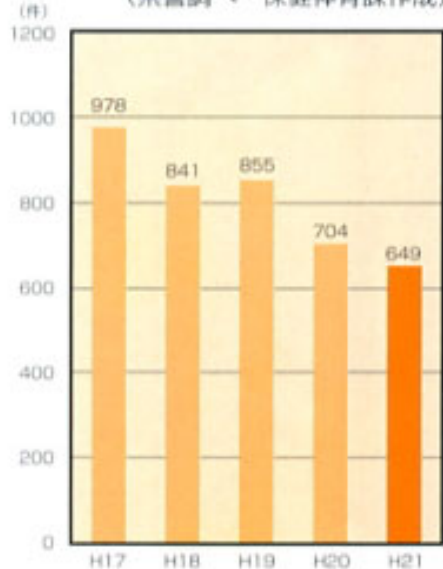


特集

交通事故を未然に防ぐ 4つの心得

県内高校生の交通事故発生件数 (1~4月)の推移

(県警調べ・保健体育課作成)



一方、今年の交通事故を状態別に見ると、自転車乗車中が二六四名と一番多く、次いで二輪車乗車中が二一八名となっています。相変わらず自転車事故が多発していることを示し、引き続き自転車事故防止に向けての具体的な取り組みが求められています。

最近、ヤングライダーズスクールだけでなく、自転車安全実技講習会を開催する学校が増えています。今後、生徒の事故防止と交通マナー向上に向けての有効な方策として期待されます。

事故減少傾向、されど自転車事故多し

～バイクによる死亡事故も発生～

県警によれば、今年に入り四月現在、県内高校生の交通事故は六四九件発生しています。これは昨年同時期に比べ五五件少なく、引き続き減少の傾向を示しています。しかし、そうした中、四月にはバイクの二人乗りで車と衝突し、バイク同乗の高校生が死亡するという痛ましい事故も発生しており、決して気の抜けない状況であることに違いはありません。

交通事故を未然に防ぐ4つの心得

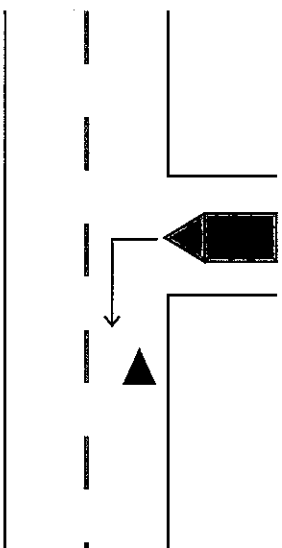
～君の知らない自動車運転者の心理～

車を運転したことがない高校生。当然ながら自動車運転者の心理を知るはずもありません。しかし、実はそこに大きな落とし穴が潜んでいたのです。ここに挙げた4つの事例は、高校生が自転車乗車中や歩行中に出会いがちなものであり、いずれも相手運転者の心理を知っていれば避けることができたと考えられるものです。事故を未然に防ぐためには運転者の心理を知ることが不可欠なのです。

私に気づいていないかと思っていました

～ 右側通行の落とし穴 ～

いつも、自転車で通学しています。その日も何げなく車道の右側を走り、家に向かっていました。しばらく行くと先右の路地から車が左折しようとして頭を出しているのに気がつきました。車の運転者も私の存在に当然気がついていてると思っていたので、私は何の疑いもなく車の前を横切ろうとした瞬間でした。「ドンッ！」急に出てきた車に私は防ぎようがなくぶつかってしまいました。



心得1

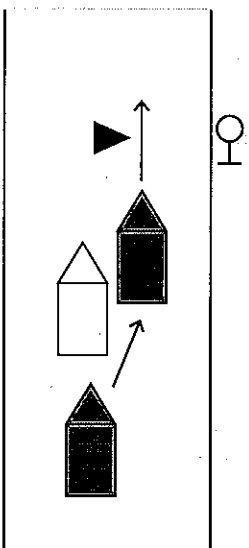
路地から車が出ようとしている
まず止まれ

車が二車線道路へ左折して出ようとする場合、運転者は自分がこれから走行しようとする車線、つまり右側方向から来る車に意識を向けていることが多いのです。そのため、自分の左側から来るものを見落としがちなのです。

渡りさせてくれるかと思いついて、安心して…

～ サンキュー事故の典型 ～

見通しのよい少し広めの二車線の直線道路。私は対面のバス停へ行くところと横断歩道の手前で車が途切れるのを待っていました。しばらくして、右から来た一台のトラックが減速して私を渡らせてくれようとしていました。左からは車が来る様子もなかった。私には安心して横断歩道を渡ろうとしたその時でした。トラックを追い越してきた一台の乗用車が私のすぐ目の前を通り過ぎて行ったのです。間一髪でした。



心得3

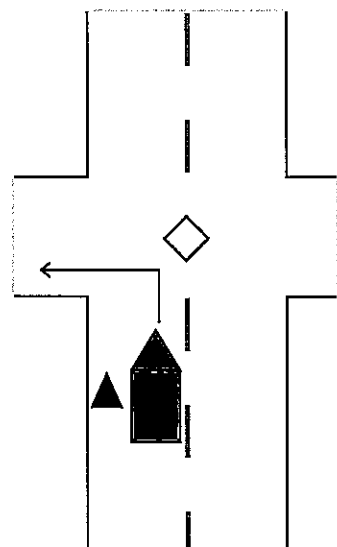
止まった車の陰に注意！
車が出てくるかと思え

この場合、後ろの乗用車からは歩行者が見えないために、なぜ前のトラックが止まるのか、乗用車の運転者には理解できなかったと考えられます。まして、「コンビニ」などの店舗がある場合には、前の車がそこに立ち寄るのであれば自分勝手に臆測し、追い越しを試みるのです。

信号が青になったので渡ろうとしました

～ 左折巻き込みの恐さ ～

大きな交差点で大型トラックの横に並んで信号を待っていました。信号が青になったので渡ろうとペダルに力を入れました。すると、私が横にいるにもかかわらずトラックが左折しようとして左に寄ってくるではありませんか。あやうく巻き込まれそうになりました。トラックの運転手が私がすぐ横にいるのをわかっていなかったのです。



心得2

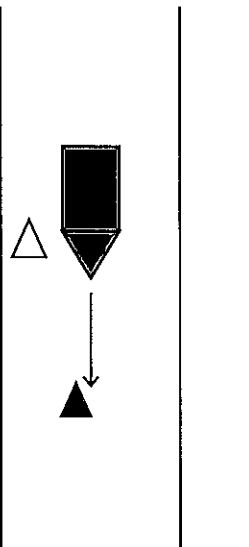
車の真横は死角！ 絶対に止まるな

トラックの運転席からの視野に死角があることはよく言われることです。自転車の生徒は「すぐ隣にいるのだから当然気づいているはず」と往々にして思いがちです。しかし、死角に入ってしまったら運転席からは見ようにも見えません。安全策として、何よりも死角には近づかないことが大切です。

私からは見えていないので、大丈夫だと…

～ 無灯火運転の恐怖 ～

あたりがすっかり暗くなった頃、友人と自転車で帰路にきました。友人は私の前を走り、私はその後を少し距離をおいて走りました。友人はライトを点灯していましたが、私は故障のためライトを点灯することができませんでした。街路灯のない暗く狭い道にさしかかった時、前方より一台の車がやってくるのがわかりました。今思えば、私は友人より少し車道寄りを行っていたことも災いしました。当然通り過ぎるものと思っていた車に右胸を接触され、私は痛い代償を支払うことになりました。



心得4

ライトは自分の存在を知らせるもの
暗くなったら必ず点灯せよ

まず何よりも無灯火の自転車は車からの発見が遅れてしまいます。自分が見えるように車からも同じように自分のことが見えているというのは誤った認識です。この場合、車の運転者が友人の自転車に気をとられたためなおさら発見が遅れたと考えられます。



果たせなかった約束

これは私が母から聞いた話です。母が大学を卒業し就職して二年目の秋のことでした。同期のIさんから一本の電話がかかってきたそうです。それは「結婚が決まったことを報告する電話」でした。色々な障害を乗り越えてやっと許しが出たと嬉しそうに話していたそうです。母は次の日、早速お揃いのコーヒーカップを、金色のとても綺麗な包装紙に真っ赤なリボンをかけて、用意しました。

しかし、その三日後、母の元にIさんの部署の先輩から突然電話がかかってきたそうです。それは「今朝早く、Iさんが交通事故で亡くなった。」という訃報を知らせる電話でした。Iさんは会社で遅くまで残業した後に、ほんの少し仮眠をとって、友達の結婚式に向かう途中に東北自動車道で事故に遭いました。高速道路のカーブの続く所を曲がりきれずに横転し、車外に投げ出された単独事故でした。シートベルトはしておらず、即死だったそうです。

何故シートベルトをしていなかったのか。仕事を削ってももう少し仮眠を取ってれば……。もう少しだけスピードを落としてゆっくり走ってれば……。あの時気をつけて行っと一言声をかけておけば……。母は色々な事を考えた

そうです。でもどんなに後悔しても起きてしまった事故を取り消すことは出来ませんでした。例えようもない悲しみが母を襲い、葬儀の日は仲間の人たちとその場でただただ、無言で泣いたそうです。

その一つの事故が、どの位多くの人の人生を狂わせてしまったのか。残された人達の悲しみは私の想像を絶するものがあります。私はこの話を聞いて色々なことを考えました。幸せに迎えるはずの明日が来ないのです。皆で語り合った夢も一瞬で砕け散ってしまったのです。交通事故というものを本当に恐ろしく、悲惨なものだと思いました。しかし「交通安全」という普段聞き慣れているこの言葉を私たちは本当に理解し、意識して毎日生活しているでしょうか。車は、

一年生全員に自転車実技指導

去る五月七日、県立深沢高校（鎌倉市手広）にて一年生対象の自転車安全運転実技指導が公開されました。当日は、激しい風雨のため、本来グラウンドで行うところを、場所を武道場や体育館のピロティに移し、雨天プログラムで行われました。

深沢高校は毎年四、五月に一年生全六クラスを対象に自転車実技指導を行っており、今年で六年目を数えます。

五、六時間目を使い、一時間一クラスの配分で三週にわたって行われ、今回はその最終週と

とても便利で生活に欠かせないものだけれど一瞬にして凶器に変わるということをもう一度肝に銘じたい、銘じないといけないと思います。

今でも私の家には古びた金色の包装紙に色あせた赤いリボンがかけられたあのプレゼントが残っています。「渡すことも出来ず、捨てることも出来ず、果たすことのない約束。」と母はそのプレゼントの箱を見ながら言いました。私はガードレールにくくりつけられている菊の花を見るたびに、あの赤いリボンのかかった箱を思い出します。母の思いの詰まった、幸せな家族の出発に渡すはずだったその箱のことを。そして思い出します。どうかこの事故にかかわる方々の悲しみが早く薄れますように。どうか交通事故で命を落とす人が一人でも少なくなりましょう。

県立深沢高校で交通安全公開授業

ということでした。

体育館のピロティにはスラローム体験のため

のコーンが並べられ、かたや武道場には見通しの悪い交差点がくり出されました。鎌倉署員や

らし安全指導員の指導のもと、生徒は二人乗りや片手運転の危険性、左側通行の大切さなどを熱心に学んでいました。

